

MediaWiki を用いた被災文化施設の被災・救援情報の集約と共有の試み

Gathering and sharing of information regarding damages suffered by and aid given to cultural facilities affected by the Great East Japan Earthquake

岡本真^{*1}

Makoto Okamoto

大向一輝^{*2}

Ikki Ohmukai

^{*1} アカデミック・リソース・ガイド株式会社
Academic Resource Guide, Inc.

^{*2} 国立情報学研究所
National Institute of Informatics

This article describes Gathering and sharing of information regarding damages suffered by and aid given to cultural facilities affected by the Great East Japan Earthquake.

1. はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、インターネットの普及後、日本で起きた初めての大规模災害である。また、被災地の広範さが日本史上例を見ないものであった。これらの理由から東日本大震災における支援活動においては、広く、かつ多様にインターネットが活用された。

本発表では、数あるインターネットを用いた支援活動のうち、筆者らが参画している Semantic Media Wiki を用いた文化施設の被災・救援情報の集約と共有の試みにふれ、この試みを成立させていると思われる仕掛けの事例を紹介する。

2. saveMLAK による文化施設の被災・救援情報の集約と共有

本発表で題材とするのは、筆者ら約 300 名の有志が取り組んでいる博物館・美術館 (Museum)、図書館 (Library)、文書館 (Archives)、公民館 (Kominkan) の支援活動・saveMLAK である。これは 2011 年 3 月 12 日から個別に始まった 4 つのプロジェクトを発展的に統合したもので、博物館・美術館、図書館、文書館、公民館といった施設・機能の所在状況と被災情報の集約と共有、そして把握した情報に基づく支援活動を行っている。情報の集約と共有には、協同編集ソフトである Semantic MediaWiki を用いており、2012 年 4 月末の時点で約 2 万 2000 施設の所在情報を、そして、うち約 800 施設について、具体的な被災情報を集約・共有している。

図 1: 集約・共有している情報量 (2012 年 4 月 18 日時点)

施設種別	被災情報/所在情報
博物館・美術館	(195 件/5407 件)
図書館	(516 件/10224 件)
文書館	(25 件/164 件)
公民館	(71 件/6239 件)
類縁施設	(3 件/87 件)

データの収集と入力には、人的手法と機械的手法がとられている。人海戦術でデータを入力しつつ、他方で機械的にデータを収集・加工し、一括して反映することも相当程度行った。この結果、2011 年 12 月末時点では、総ページ数は約 2 万 4300 ページ、一度でもデータの編集に携わった方は約 300 人、総編集回数は約 10 万 1200 回となっている。

MediaWiki を用いた情報の共同編集には、Wikipedia をはじめ、様々なプロジェクトが存在するが、その中でも saveMLAK による MediaWiki を用いた被災文化施設の被災・救援情報の集約と共有の試みは、顕著な成功事例と言える。では、これほどの成功を実現する上での「仕掛け」としてどのような取り組みが認められるのか、この点を次に論じていく。

3. MediaWiki 活用を促進する「仕掛け」

3.1 5 つの「仕掛け」

1 年以上に渡る saveMLAK の活動は多様なものであるが、なかでも顕著に特徴的なのは、MediaWiki を用いた協同での情報編集であった。この際、MediaWiki 活用を促進し、数多くの参画者を得るために、中心人物らによって以下の 5 点が特に意識して取り組まれた。

1. カラムを増やしすぎない簡易なデータフォーマット
2. システム特性に根づいた寛容な運営方針
3. ソーシャルメディア等での活発なコミュニケーション
4. オフラインでの定期的なコミュニケーション
5. 同時多発的な協同入力イベントの実施

この 5 点について述べる。

3.2 カラムを増やしすぎない簡易なデータフォーマット

震災という非常時下において突発的に始まった活動であったため、事前の準備は一切なく、当初のデータ構造は、筆頭著者であり、saveMLAK プロジェクトの前身である savelibrary という活動を震災翌日の 3 月 12 日に開始した岡本に委ねられていた。この際、技術水準が同一ではない多様な参画者の可能性を考え、以下の図のような簡易なデータ構造を採用した。

図 2: 図書館の場合の基本データ構造

被害状況	職員・利用者の被害
	施設の被害
	蔵書の被害
	その他の被害
運営情報	
救援状況	
その他	
情報源	記入者
	元情報

上記は図書館のデータ構造例であるが、図書館関係者でなくとも直感的に理解できる構造や名称となっている。この理解の

連絡先: 岡本真, アカデミック・リソース・ガイド株式会社, 〒231-0012 神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 2F さくら WORKS < 関内 >, mokamoto@arg-corp.jp

容易さによって、共著者である大向のように図書館関係者とは異なる情報技術系の研究者らの参画も最初から進んでいった。

3.3 システム特性に根づいた寛容な運営方針

次いで行われたのは、協同編集作業における寛容性の徹底である。現時点では 300 名以上に上る編集経験者だが、当初は MediaWiki を使用したことがある参加者は 10 名にも満たなかった。そのため、当然作業上の間違いが発生する。このとき参画者間の衝突を生じやすいが、saveMLAK では Wiki 編集の中心人物らによって、他人のエラーに対する寛容性の要請と適切なフォローが徹底された。この背景には、すべての編集行為が記録され、必ずデータ間の差分が残るという Wiki のシステム特性への理解があったからである。ヒューマンエラーを含め、「間違い」は必ず起きると諦観しつつ、「間違い」は履歴から補正できるという安心感を与えながら、決して「怒らない」という姿勢を徹底した。

3.4 ソーシャルメディア等での活発なコミュニケーション

MediaWiki 上で協同編集作業が展開される一方で、ソーシャルメディア等のインターネットサービスを用いて、フルオープンとセミオープンの両面でのオンラインコミュニケーションが意識的に実施された。フルオープンなコミュニケーションは Twitter によって行われている。ハッシュタグとして「#saveMLAK」を用いたコミュニケーションでは、Wiki 編集での疑問の表明やそれへの回答、失敗の告白やそれへの励ましが主に見られた。公開の場でのこれらのやりとりは、新たな参画者を次々と呼び込む一つのきっかけとなった。

セミオープンなコミュニケーションは、2011 年 3 月 20 日に開設した参加申請が必要なメーリングリストで行われている。このメーリングリストには約 300 名が参加し、過去 1 年で約 4100 通のメールが行きかっている。

いずれのコミュニケーションも MediaWiki の編集のみが話題であったわけではないが、Q&A サイト等に見られる助け合いの構図は十分に認められた。えながら、決して「怒らない」という姿勢を徹底した。

3.5 オフラインでの定期的なコミュニケーション

他方、参画者間の円滑なコミュニケーションを意識し、saveMLAK MeetUp と呼ぶオフラインでの打ち合わせも定期開催している。基本的には日本全国で最大 5 会場を設け、参加者は最寄りの会場に集まり、そこで近隣の参加者と顔を合わせつつ、他の会場との間を Skype でつなぎ音声で対面する形式をとっている。複数の会場に分散することで、会議のスピードが落ちる懸念があったが、司会進行の管理を徹底することで、その問題を防いでいる。

図 3: saveMLAK MeetUp の開催実績

開催回数	開催年月日	開催会場
第 1 回	2011 年 4 月 4 日(月)	東京、筑波、京都、福岡
第 2 回	2011 年 4 月 19 日(火)	東京、筑波、大阪、福岡
第 3 回	2011 年 5 月 10 日(火)	東京、横浜、京都、大阪、福岡
第 4 回	2011 年 6 月 21 日(火)	東京、大阪、福岡
第 5 回	2011 年 8 月 11 日(木)	東京
第 6 回	2011 年 8 月 31 日(水)	東京
第 7 回	2011 年 10 月 11 日(火)	東京、横浜、大阪
第 8 回	2011 年 11 月 1 日(火)	東京、北海道、山梨
第 9 回	2011 年 11 月 7 日(月)	東京、北海道、山梨

第 10 回	2011 年 12 月 19 日(月)	東京、横浜、大阪
第 11 回	2012 年 1 月 17 日(火)	東京、大阪、福岡
第 12 回	2012 年 2 月 16 日(木)	東京、横浜、大阪、福岡
第 13 回	2012 年 3 月 28 日(水)	東京、岐阜、福岡

3.6 同時多発的な協同入力イベントの実施

最後の仕掛けが、同時多発的な協同入力イベント「うきうきウィキ祭り」の開催である。これは任意の 1 日間を集中して協同編集を行うもので、参画者に協同での作業を実感してもらって、一体感を醸成することを図っている。各自が自宅から参加するのに加え、前述の MeetUp と同様、各地に会場を設置し、各会場に参集して作業の協同者と顔をあわせ、声をかけあいながら作業にあたるようにもしている。また、MediaWiki に関する基礎的な学習機会をつくるためのチュートリアルを実施し、その模様はインターネットを通じて他の会場の参加者や個人参加者に配信されている。また、この催しの際は、MediaWiki の習熟度合いを考慮し、簡易なものからやや難易度の高いものまで、あらかじめ取り組む課題を設け、作業のためのリスト化を行う等、協同作業の前提となる協同学習を成立させるための工夫もきめ細かく行われている。

図 4: うきうきウィキ祭りの開催実績

開催回数	開催年月日	開催名目
第 1 回	2011 年 4 月 24 日(日)	
第 2 回	2011 年 4 月 30 日(日)	「図書館記念日」祭り
第 3 回	2011 年 5 月 18 日(水)	「国際博物館の日」記念祭り
第 4 回	2011 年 6 月 4 日(土)	「学校図書館」強化祭り
第 5 回	2011 年 6 月 9 日(木)	「国際アーカイブズの日」記念祭り
第 6 回	2011 年 6 月 19 日(日)	「公民館」強化祭り
第 7 回	2011 年 7 月 7 日(木)	「七夕」祭り
第 8 回	2011 年 9 月 23 日(金)	「学校図書館」強化祭り
第 9 回	2011 年 12 月 27 日(火)	
第 10 回	2012 年 3 月 11 日(日)	

4. MediaWiki 活用を促進する「仕掛け」の可能性

以上、saveMLAK という具体的な活動における実践に基づき、MediaWiki のような協同編集ソフトにおけるコラボレーション促進の可能性を検討した。本発表で挙げた 5 つの「仕掛け」が参画者の観点からどのように認識され、かつ何らかの行動変化を生んでいたのかどうか、ヒアリングやインタビューに基づく定性的な調査とあわせて、定量的な把握と評価を進めていきたい。

参考文献

- [江草 2011]江草由佳, 高久雅生: saveMLAK ウィキサイトー博物館、図書館、文書館、公民館の震災関連情報、漢字文献情報処理研究 No.12, 漢字文献情報処理研究会, 2011.
- [鍋木 2011]鍋木あずさ, 江草由佳, 山村真紀, 筒井弥生, 神代浩: 「saveMLAKー博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報」における活動の経緯と展望, 現代の図書館 Vol.49, No.3, 日本図書館協会, 2011.
- [岡本 2012]岡本真, saveMLAK の活動と課題、そして図書館への支援を巡って, 情報管理 Vol.54, No.10, 科学技術振興機構, 2012.